

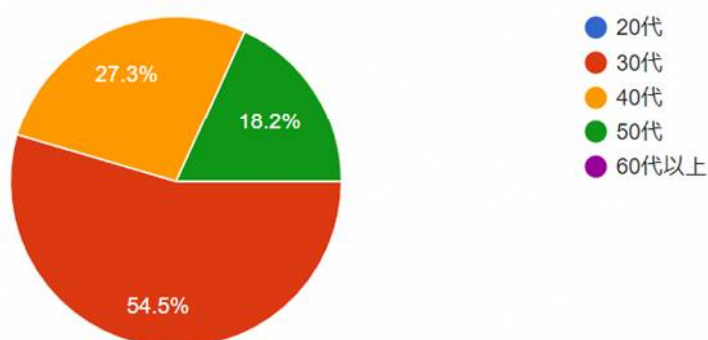


2022年度 一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会実践講座「終末期医療へのソーシャルワーク介入」オンライン アンケート

本日はご多忙の中ご参加いただき、誠にありがとうございました。アンケートにご協力をお願い致します。

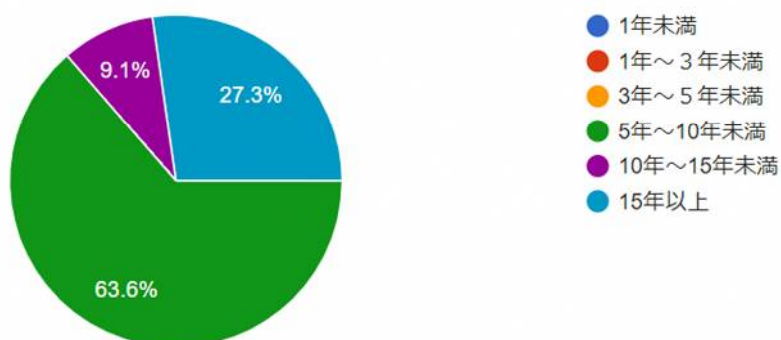
1. 年齢

11件の回答



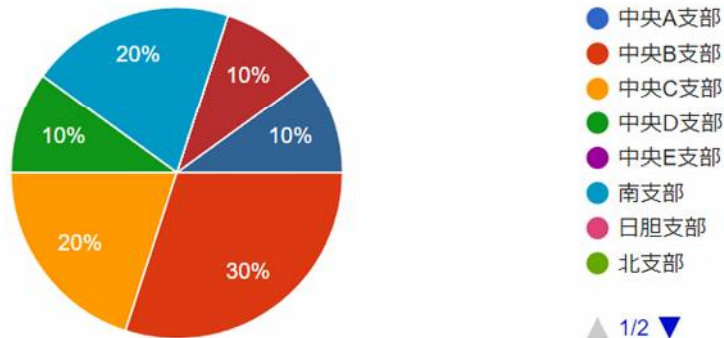
2. ソーシャルワーカーとしての経験年数

11件の回答



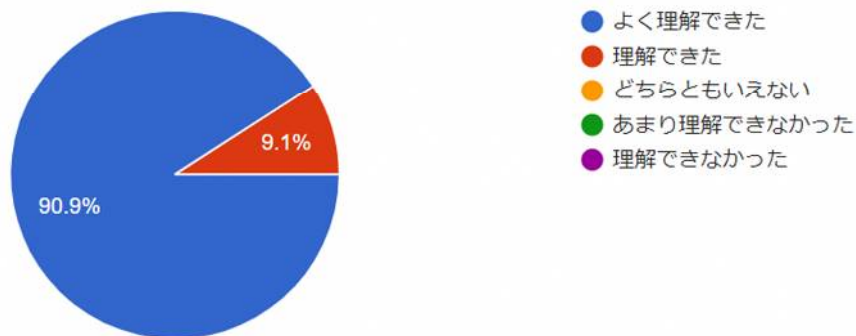
3. 会員種別

10件の回答



5. (1) 講義の理解度について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。

11件の回答



5. (2) 上記でそのように答えた理由についても、ご記入ください。

6件の回答

講義の内容が非常にわかりやすかったです

バイスティックなどケースワークの側面から説明していただいたり、ご自身の実践や経験に基づきながらDrの特徴などを教えていただきわかりやすかったです。

医師の視点から、在宅医療への思いを聞くことができよかったです。

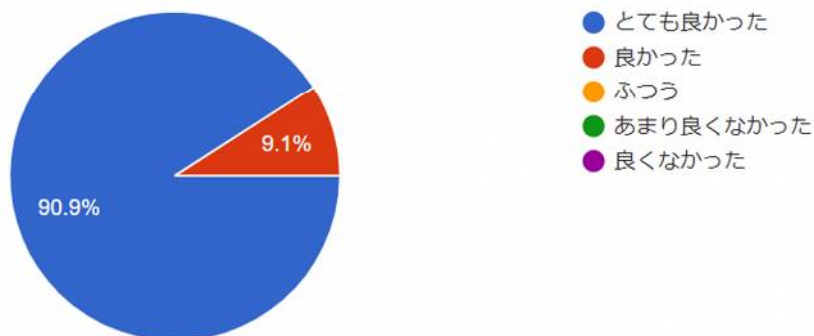
日々の業務内容が、今回の研修テーマだから。

どの講演も興味深く、実践に活かせる内容でした。

大友先生や実践発表者の方々の具体的な実践事例で、イメージが付きやすかったです。横須賀市で使っているカンファレンスシートは新人のSWによさそうだなと思いました。出来れば札幌市でも、あわよくば協会でのような物があれば良いなど、あわよくばですが思いました。

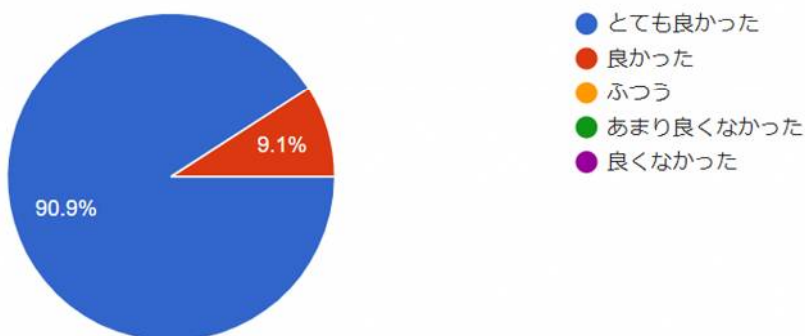
6. (1) 実践報告①について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。

11件の回答



6. (2) 実践報告②について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。

11件の回答



6. (3) 上記でそのように答えた理由についてもご記入ください。

7件の回答

基本に立ち返り基本に忠実にすることの大切さを改めて感じた

全ての内容が非常に興味深く、勉強になるものでした

具体的な取り組みや事例を用いて実践を提示していただき、終末期の支援において大事にしなければならない点などを再認識するとともに、とても参考になりました。
ただ、こちらのネット環境の関係で桐越さんの実践報告が途中からの視聴となってしまったため、オンデマンド配信で講義を再視聴したいと思います。

北海道は地域特性の関係で、他の都府県と比較し在宅療養へ移行する際に行う支援における課題が多いと思っております。今回は由仁町の講義を通じその一端を学ぶことができたと考えています。

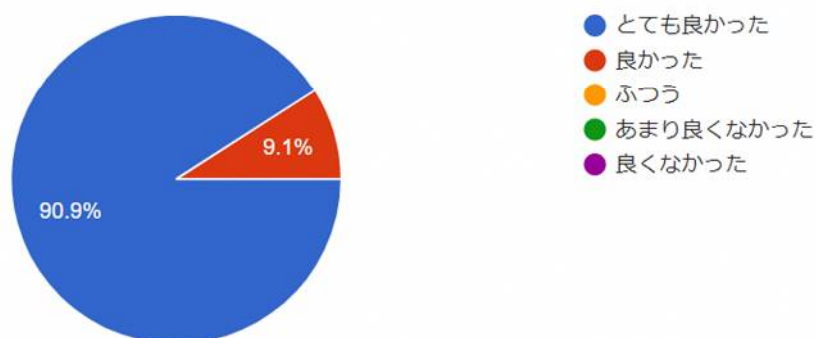
由仁町の取り組みには、特に興味を持っていました。

自分の支援に活かせることはないかと考えながら拝聴していました。

高木さんの実践報告は急性期のソーシャルワーカーとして身の引き締まる内容でした。病院で持っている緩和ケア病棟に転科するからと介入依頼が無かったり、日々の実践で忙しいと病棟からの介入依頼を待っていれば良いと受け身になりがちです。「時間がかかるから(=DPCが切れるから?)」と時間の無い患者に不利な選択(緩和ケア病棟へ転院しての在宅調整)だけは、したくないと思いました。自分から患者のスクリーニングをするようにする等、アンテナを高く持って患者に関わっていけるようになりたいと思いました。由仁町のかかりつけの先生が訪問診療をやってるなんてどこにも書いてないのに、訪問診療をしてくれる事になったケースがありましたが、由仁町全体の実践なんだと、由仁町の社会資源の情報を勉強になる機会になりました。

7. (1) 総合討議について、次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。

11件の回答



7. (2) 上記でそのように答えた理由についても、ご記入ください。

5件の回答

円滑な司会進行で充実したお時間であったと思います

3人の講師の方から、ミクロからメソレベルに至るまで様々なご意見を伺うことができ、本当にいろいろと考えさせられることが多かったです。

いろいろな方の課題意識を聞いて良かったです。

ACPについての討議が特によかったです。ソーシャルワークそのものが患者さん個人のACPですね。それは終末期でなくてもそうですよね。

新たな視点を学ぶことができました。

8. (1) 本研修を受講し新たな気づきや振り返りとなる点はありましたか。

11件の回答



8. (2) その理由をご記入ください。

7件の回答

終末期のソーシャルワーク、自分自身知識不足を痛感しました。同時に基本に立ち返ることの大切さを学びました

終末期においてもソーシャルワークの基本に立ち返ることが大事だと気づかされました

これは終末期に限らずですが、クライアントやそのご家族が「どうしたいのか」をしっかり聞くことが、改めて非常に大事なことだと感じました。

特に最近では、コロナ禍でなかなか思うように面接が出来なかったりご本人やご家族が会えていなかったりする状況が続く中、自身の支援において、必要に応じた対話やコミュニケーションが不十分になってしまっていたのではないかと気づかされました。

周りの人が課題を感じている事と自分が課題と考えることの違いを知ることができました。

在宅診療のソーシャルワークは、患者さん個人個人のオーダーメイドです。同じような病気や年齢でも同じ事例はありません。患者さんひとりひとりとインテークからACPなんだと、改めて気づきました。

そして、病院のMSWの皆さん、患者さんが家に帰りたいたいと思ったら、その日が退院に適した日だと思います。全速力でダッシュして下さい。必ず伴走します。

退院支援での自分の支援のあり方、また終末期の患者さんとの関わりについて振り返り、自分の職場で実践できることについて考えられるきっかけとなった為

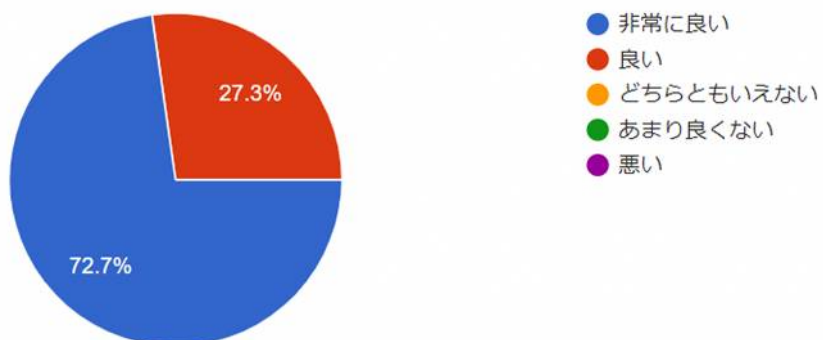
大友先生の講義内容で、日々の実践に自信が無い時もありましたが、間違っていなかったなとか、日々の実践を振り返ったり月曜日以降の実践に使えるようなヒントがいくつもありました。

桐越さんの講義で限られた社会資源の中で地域で在宅医療を実践していく力強さを感じましたし、バイタルリンクの導入を町全体でされている事も個人情報などのハードルもあったのではないかと思います。勉強になりました。

また、高木さんの報告では、同じSWとして身が引き締まる内容でした。患者がBSC方針になった時にSWがいるかないかで、患者の未来も変わっていたのかもしれないと思うと、自分の職種に責任を改めて感じました。

9. 本日の研修についてお伺いします。運営の段取り、見やすさ・聞きやすさなどはいかがでしたでしょうか。次のうちあてはまるものにひとつチェックをつけてください。

11 件の回答



今後の研修運営などご希望を自由にご記入ください。

3 件の回答

アセスメントについて、記録の書き方について学びたい

MSWとしての気づきがたくさんある研修でした。ありがとうございました。

運営はとてもスムーズで分かりやすく、そして充実した研修でした。